

令和4年度 入学式式辞

暖かな光が満開の桜を照らし、ここ大庭宮山も芳しい春の香り漂う今日の佳き日、学校法人沁南学園 立正大学沁南高等学校 令和4年度入学式を本日ここに無事挙行することができました。

ご家族の皆様、本日はご子女のご入学まことにおめでとうございます。大切にご養育なされたお子様を本校にお預けいただき心より感謝申し上げます。これから3年間、本校の教育活動にご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

さて、新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。数ある高校の中から本校を選び、全国各地から入学してきた希望溢れる皆さんを、学校を代表して心より歓迎いたします。在校生諸君も今日は各教室でオンラインにて式典に参加し、皆さんの入学を祝福しています。

本校は、全校生徒の多くが勉強と部活動の両立に日々励み、サッカー部、野球部、射撃部、マーチングバンド部が常に全国レベルの活躍を続けています。そして昨年創部されたeスポーツ部も創部1年目にして全国大会出場を果たしました。生徒の皆さんは互いに切磋琢磨して高め合い、何事にも集中力をもって取り組んでいます。それが本校の校風でもあります。

今日から高校生としてスタートを切る訳ですが、成長する秘訣はチャレンジする気持ちを忘れないことです。今みなさんの未来は確定していません。どの方向を向いても大きな可能性が広がっています。その意味では「一度やってみよう」という積極的な姿勢はとても重要です。

江戸時代初期、近江国に中江藤樹という人がいました。陽明学を学び、郷里に一人残した母への孝養を尽くし、日本で唯一聖人と呼ばれた偉人です。藤樹の残した言葉に「知行合一」とあります。これは「知っていても行なわなければ、知らないのと同じである」という意味です。

本当の意味での知るということは実践を伴うことで、「やろうと思っていたのだけれども」と言っているうちは少しも前進していないし、何も変わっていません。まずは一步踏み出してやってみること。そして納得いくまで諦めず何度でも挑戦していくこと。それが経験値となり気づきを生み真の学びに繋がるのです。

また成功から学ぶことは沢山ありますが、失敗から学ぶことも大きい。「失敗は成功の基」という諺があるように、失敗の体験は実は有益なのです。失敗は何ももたらさないと考えるからネガティブになったり落ち込んだりします。いつまでもくよくよすることは不健全であり無益です。成功者の多くが数々の失敗を乗り越えて目標を達成したという物語は枚挙に遑がありません。

そしてもう一つ大切なこと。家族への感謝は決して忘れてはいけません。この世に生を享けて今まで自分一人の力だけで生きてきた人は誰もいないはずです。家族の支えがあって今の自分があることを今日ここで深く心に刻んでください。なぜなら感謝の心は人格を高めるための最大の栄養だからです。家族だけではなく善き仲間や友達、自分を支えてくれる多くの人がいることに感謝できるようになれば、更に人として飛躍的に成長できるでしょう。

感謝をベースに向上心をもって果敢にチャレンジしていく。そして常に「人のお手本となるべき」という意識で努力を積むことが、人として正しいと思いませんか。そうした誠実な努力の中に、人格を陶冶する力、心を豊かにする力が宿っているに違いありません。

新入生の皆さん。これから希望の未来を明確に心の中にデザインしましょう。そして自分にしかない優れた個性を磨き、それぞれの優れた長所をドンドン伸ばしていきましょう。これから皆さんの成長の為に、私たち教職員は誠心誠意努力を続けてまいります。他の高校では味わえない充実感に満ちた3年間を共に過ごし、この立正大沁南の新たな伝統と一緒に作っていきましょう。

前途に無限の可能性を持つ新入生皆さんのこれからの活躍を、今日お集まりの皆様と共に、大いに期待し、心からエールを送って私の式辞といたします。3年間よろしく願いいたします。